

教育部会自己点検・評価シート（様式1）

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会会）

教育部会名：農学

部会長名：安田剛志

作成者名：安田剛志

概要（2000字）

1. 組織と運営

農学教育部会は農学部研究科教員（食資源センターも含む）58名で構成されている。部会の運営は部会長1名と幹事2名を中心とする幹事会が行っている。部会長は原則して1年で交代し、次期部会長は幹事の中から選ばれる。平成26年度は部会所属教員14名と非常勤講師3名に講義を担当してもらった。

2. 開講科目と実施状況

地球全体レベルでの広い視野が求められる環境問題、生物資源問題、食糧問題、食育を通じた健康問題、食品の安全性問題への幅広い理解と取り組みを提起することを目標として、「生物資源と農業」と「食と健康」の2つの科目を教養原論として開講している。各科目には内容の異なる講義を2コマずつ配置している。平成26年度の授業は3～4名の教員と非常勤講師によるオムニバス形式で、以下の内容の講義を行った。

「食と健康」

前期木曜1限：授業担当教員5名（内非常勤講師1名）、履修者数187名

作物や食品に含まれる化学物質や農薬の安全性、貯蔵条件による機能性成分の変動、食品因子によるアレルギー抑制効果、腸管を介した免疫調整機能を有する食品因子、遺伝子とタンパク質と遺伝子組み換え作物、食品の微生物危害、家庭における食品衛生、お肉と牛乳と卵の講義を行った。

後期火曜2限：授業担当教員5名（内非常勤講師1名）、履修者数194名

微生物の種類・生理・代謝と利用、食品に含まれる化学物質や農薬の安全性、動物と家畜、食肉偽装とDNA鑑定、植物の色や香り、遺伝子組み換え作物、食の安全性と機能性などに関する講義を行った。

「生物資源と農業」

後期月曜1限：授業担当教員3名（内非常勤講師1名）、履修者数193名

食のため有史以前から利用し、改良を加えてきた多様な生物の中心である植物資源、昆虫資源、微生物資源に関する起源、進化、多様性について紹介するとともに、微生物や昆虫を生物農薬や天敵として利用した病虫害防除技術、収穫後青果物の生理と鮮度保持技術に関する講義を行った。

後期木曜1限 授業担当教員4名（内非常勤講師1名）、履修者数186名

イネ、ムギ、ダイズ、トウモロコシなどの穀物の起源と品種改良、これら穀物の効率的な生産を支える栽培技術、栽培環境の保全、特性や加工利用について紹介するとともに、森林資源の多様性と利用・保全に関する講義を行った。

3. 現状と評価

「食と健康」、「生物資源と農業」の両科目とも、自己点検・評価シートの回答はすべての授業担当者から得られた。学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮するため、小テストやレポートで授業の理解度を把握するととも

に、授業に対する要望を記述させ、次回の講義に反映させているなどの工夫が見られた。

成績評価は出席状況、小テスト、レポートから総合的に判定しており、単位認定の実質化はなされている。科目間で成績分布に不均衡が見受けられ、今後、授業担当教員間で調整して是正する必要があると思われる。

学生授業評価アンケートの回収率は4～9%と低かったが、総合判断が3.9～4.3であることから判断して、履修者が食糧問題や環境問題、食の安全性などを理解し、関心を持つようになったと分析している。学生の出席状況、受講態度は概ね良好であった。

一方で、授業改善が必要と思われる事項、授業に対する意見や要望もいくつかあがっている。オムニバス形式は様々な話題を提供できる利点があるが、担当教員間の授業内容のつながりには些か問題があり、授業計画性の改善が指摘されている。「食と健康」も「生物資源と農業」の履修者数は毎年200名ほどで、授業途中に担当教員とTAで小テストやレポート用紙を配布している。授業評価アンケートで遅刻者への対応や出席代書のチェックが甘くなっていると指摘されている。平成25年度までは科目当たり6時間分のTA経費が配分されてきたが、今年度は2時間に減額された。TAの協力が無い授業が増え、小テスト、レポート用紙の配布が厳密にできなくなったことの一因となっていると思われる。討論参加型授業に関しては大人数では無理があるとの意見も寄せられている。これらの点を次年度以降、部会として具体的に検討していきたい。

項目・観点ごとの記述

基準5 教育内容及び方法

5-1 【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切であること。】

5-1-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

観点到る状況（150字以上）

教養原論として「食と健康」と「生物資源と農業」の2科目を開講している。「食と健康」食品の機能性、農薬の安全性、食品偽装問題、遺伝子組換え作物の問題を、「生物資源と農業」では遺伝資源、農作物の品種育成、栽培管理、病害虫防除、収穫物の特性、森林保全など最近のトピックスを取り上げ、多様な学生が興味をもつ授業内容となるように配慮している。

根拠資料

シラバス、授業配付資料、授業評価、レポートに対する回答

5-2 【教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。】

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・

バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

観点に係る状況（150字以上）

授業形態は講義である。授業担当教員は農作物、樹木、微生物、昆虫、動物、食品のイメージをふんだんに盛り込んだパワーポイントを作成し、学生が視覚的に授業内容を理解できるように工夫している。授業は大講義室で実施しているため、対話形式授業の実践は難しいが、提出されたレポートに対して、次回の授業でコメントするなどしている。

根拠資料

シラバス、授業配布資料

5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。

観点に係る状況（100字以上）

出席回数（単位認定に必要な出席回数を設けた科目もある）、授業中に実施した小テストおよびレポート課題を総合的に評価している。遅刻者に対しては講義開始後20分後入室を認めない、または20点減点を課すなど対応している。

根拠資料

シラバス、ガイダンス資料

5-2-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

観点に係る状況（50字以上）

シラバスには授業履修を決める上で必要となる情報、授業のテーマと到達目標、授業の概要と計画（授業日、担当教員名）、成績評価と基準、履修上の注意、教科書などを記載している。ガイダンス時にもシラバスを配布し、説明している。

根拠資料

シラバス

5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

観点に係る状況（100字以上）

文系学生が多く履修していることを配慮し、授業中に中学・高校理科の復習的な内容にも触れるとともに、理解しやすい配付資料を作成している。シラバス及び講義中に教員のメールアドレスを公開し、オフィスアワー中に対応している。

根拠資料

シラバス、ガイダンス資料、授業配付資料

5-3 【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定が適切に実施され、有効なものになっていること。】

5-3-②： 成績評価基準が策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

観点に係る状況（100字以上） シラバスに成績評価基準を掲示するとともに、各科目の第1回目ガイダンス時に資料を配付し、学生に小テストやレポートを毎回課し、総合的に成績を評価することを説明している。その基準に従い、成績評価、単位認定を行っている。
根拠資料 シラバス、ガイダンス資料

5-3-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための措置が講じられているか。

観点に係る状況（100字以上） 授業担当教員のから提出された小テスト、レポートなど評点を部会長、幹事が集計し、成績を評価している。科目間の成績分布をみると科目間で若干不均衡が見られたので、次年度以降、不均衡が生じないように調整していきたい。
根拠資料 シラバス、ガイダンス資料、成績分布、授業評価

基準6 学習成果

6-1【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。】

6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。

観点に係る状況（100字以上） 学生授業評価アンケートによる総合評価は「有益であった」～「どちらかと言えば有益であった」との回答が得られ、各科目の学習成果や効果は概ねあがっていると考えている。遅刻者について厳粛に対応して欲しい、一方で厳しすぎるとの意見が寄せられたので、次年度以降やり方について検討する。
根拠資料 ・ 授業評価、アンケート

基準7 施設・設備及び学生支援

7-1【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。】

7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

観点に係る状況（50字以上）

レポートや自主的学習に役立つ参考書をシラバスや授業の配付資料に紹介し、図書館でも閲覧できるようにしている。

根拠資料

シラバス、ガイダンス資料、授業配付資料

7-2【学生への履修指導が適切に行われていること。また、学習や課外活動等に関する相談・助言、支援が適切に行われていること。】

7-2-①： 授業科目のガイダンスが適切に実施されているか。

観点に係る状況（100字以上）

第1回目授業でガイダンスを実施している。シラバスに記載されている事項（授業のテーマと到達内容、授業内容・スケジュール、成績評価基準など）と担当教員のメールアドレスを記載した資料を配付し、説明している。

根拠資料

ガイダンス資料

7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。
また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。

観点に係る状況（100字以上）

授業終了後に、学生からの授業内容、参考図書、公欠、出席回数などに関する質問や相談に応じている。また、授業担当教員のメールアドレスを公開することで、授業日以外にも学生からの問い合わせに対応できるようにしている。

根拠資料

シラバス、ガイダンス資料、アンケート